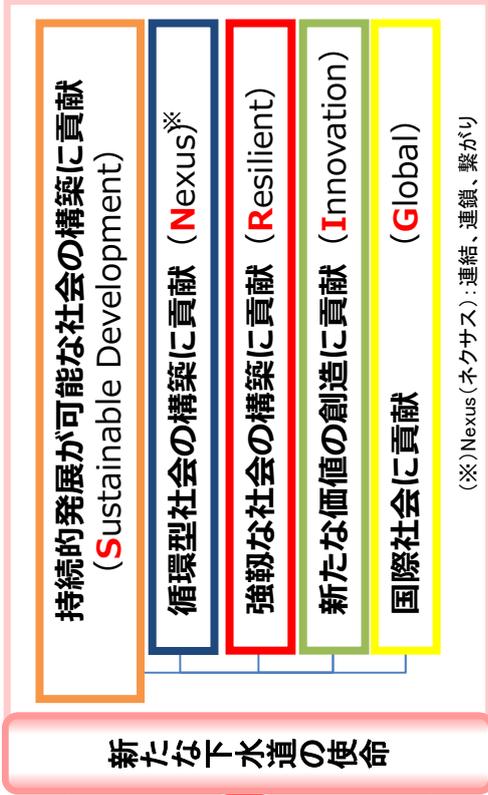
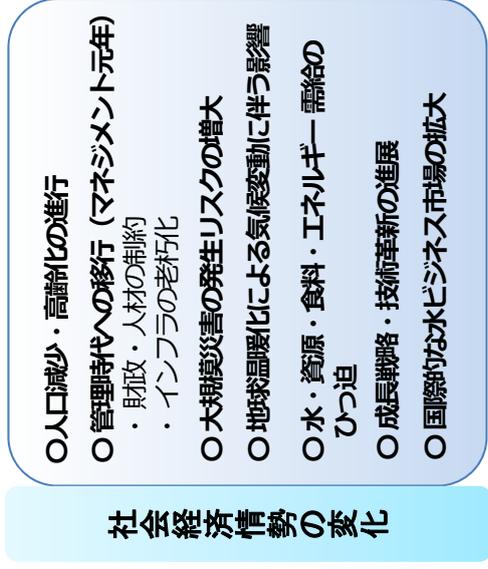


# 新下水道ビジョンについて（概要）

別紙

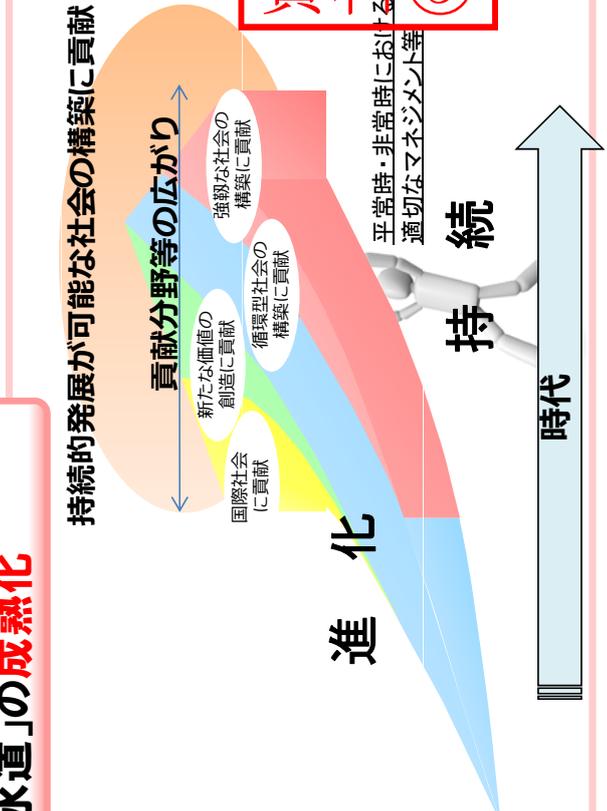
- 「下水道政策研究委員会」（委員長：東京大学 花木教授）の審議を経て、平成26年7月「新下水道ビジョン」を策定。
- 「新下水道ビジョン」は、国内外の社会経済情勢の変化等を踏まえ、下水道の使命、長期ビジョン、及び、長期ビジョンを実現するための中期計画（今後10年程度の目標及び具体的な施策）を提示。



## 新下水道ビジョン：「循環のみち下水道」の成熟化

- 「循環のみち下水道」の持続
- アセットマネジメントの確立
  - クライシスマネジメントの確立
  - 国民理解の促進とプレゼンスの向上
  - 下水道産業の活性化・多様化

- 「循環のみち下水道」の進化
- 健全な水環境の創造
  - 水・資源・エネルギーの集約・自立・供給拠点化
  - 汚水処理の最適化
  - 雨水管理のスマート化
  - 世界の水と衛生、環境問題解決への貢献
  - 国際競争力のある技術開発と普及展開



資料⑤

# 【第1章】新下水道ビジョン策定の背景と目的

## 国民生活や経済活動を支える下水道

- 水は生命の源であり、絶えず地球上を循環しながら、人々の生活を支え、潤いを与えるとともに、産業や文化の発展の礎になる、他に代わりを求めることのできない極めて重要な資源である。
- この貴重な水の循環の一端を支えているのが下水道。
- 下水道は、水の循環をとおして、人々の衛生的で快適な生活環境を支え、河川、湖沼、海洋等の水環境を水質汚濁等から守っている。さらに、都市等に降った雨水を速やかに排除し又は貯留することにより、人々の生命・財産を浸水被害から守っている。

## 迫り来る危機

- 今日の下水道は、「人」、「モノ」、「カネ」の面での制約（例えば、「ベテランの大量退職と体制縮小」「施設の老朽化」「投資縮小」など）が、時間の経過とともに、静かに、しかし確実にその深刻度を増しており、その持続可能性の危機を迎えている。
- この状況を見越せば、いつの日か事業の継続は困難となり、下水道システムに基本的には有効な代替手段はないため、汚水の溢水や水道水源の汚染等による感染症の発生や水道供給の停止、河川や海域の水環境汚染やそれに伴う水産業やレクリエーション活動、生態系への被害、都市における浸水被害、管渠の破損に伴う道路陥没事故等、国民の生活や経済活動に大きな支障をきたし、人命や財産が失われるなど甚大な被害を与えることとなる。

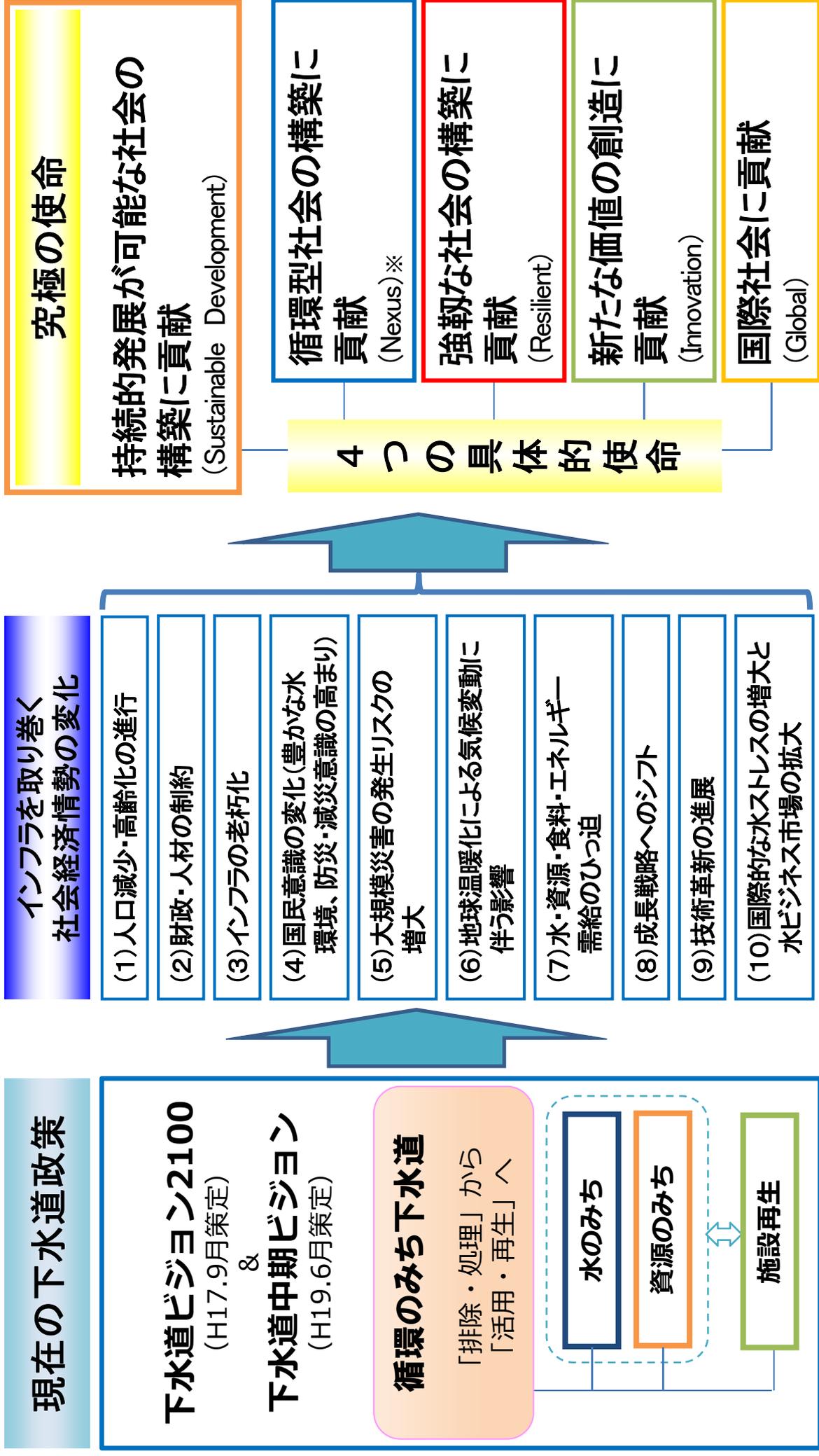
## 豊かな国民生活の実現に資するための下水道のポテンシャル

- 高度成長期以降、都市化の進展、産業の発達等に伴う衛生問題や水環境問題を解決するため、下水道施設を短期間で整備し、それらを安定的に管理運営してきた経験から培われた技術力や組織・人材が豊富に蓄積されている。
- また、東日本大震災等の大規模災害から得た教訓や、人口減少への対応策など、世界にも先んじた知見を有する。
- これらのポテンシャルや叡智を活かすことにより、世界の下水道のリーダーとなり、我が国の国際的なプレゼンス向上にも貢献可能
- さらに、下水汚泥等の地域資源を最大限活用することで、地域における水・資源・エネルギー循環の要となるとともに、下水道分野を越えて食料やエネルギー分野等にも貢献する可能性がある。

## 新下水道ビジョン策定の目的

- この「新下水道ビジョン」は、上述の危機とポテンシャルを踏まえ、「今」がまさに「危機を好機に変える最初で最後のチャンス」であると捉え、危機を好機に変えるための基本方針として策定する。
- 本ビジョンは、下水道事業の現状と課題、社会経済情勢の変化や将来を見通した上で、下水道の「使命」を改めて見直し、「使命」を達成するための長期的な未来像として「ビジョン」を描き、「ビジョン」を達成するための中期的な目標と施策を明確化するもの。
- この「ビジョン」に描いた未来像の実現に向けては、地方公共団体、公的機関、民間企業、大学・研究機関、国、国民等、全ての関係主体が本ビジョンを共有し、適切な役割分担の下、「チーム・下水道ジャパン」として一丸となって行動していくことが必要である。

# 【第1章～第3章】社会経済情勢の変化と新たな下水道の使命



※Nexus(ネクサス):連結、連鎖、繋がり

# 【第3章】下水道が果たすべき使命

## 持続的発展が可能な社会の構築に貢献 (Sustainable Development)

下水道の有する多様な機能の社会への持続的な提供をとおして、健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域にわたって保全されるとともに、いかなる時も国民一人一人の安全・安心な暮らしが守られ、活力・魅力ある地域社会の形成と持続的な経済成長が実現する社会の構築に貢献する。

## 循環型社会の構築に貢献 (Nexus※)

下水道が有する水・資源・エネルギー循環の機能を持続的かつ能動的に発揮していくことで、地域・世代を超えて、水・資源・エネルギーを量的・質的に健全に循環させる社会の構築に貢献する。

(※)Nexus(ネクサス):連結、連鎖、繋がりに

## 強靱な社会構築に貢献 (Resilient)

下水道が有する汚水の収集・処理、雨水の排除または貯留といった機能を平常時はもとより、大規模災害(地震、津波、異常豪雨等)時においても強くしなやかに発揮し、持続的に提供することを通じ、国民の健康・生命・財産及び経済活動を保護・保全する強靱な社会の構築に貢献する。

## 新たな価値の創造に貢献 (Innovation)

下水道が有する膨大なストックや情報、質・量ともに安定した水・資源・エネルギーなどのポテンシャルを、幅広い分野との連携を深めつつ活かしていくことで、新しい価値を創造する社会の構築に貢献する。

## 国際社会に貢献 (Global)

我が国が培った下水道の技術や経験を活かし、世界の水問題の解決に貢献するとともに、国際的なビジネス展開を通じ、我が国の経済の持続的成長に貢献する。

持続的発展可能な社会の構築に貢献

Sustainable development

強靱な社会の構築に貢献  
Resilient

新たな価値の創造に貢献  
Innovation

国際社会に貢献  
Global

循環型社会の構築に貢献  
Nexus

# 【第3章】 3. 長期ビジョン ～「循環のみち下水道」の成熟化～

- 下水道の使命に鑑み「循環のみち下水道」という方向性は、新下水道ビジョンにおいても堅持する。
- その上で、使命を実現するための長期ビジョンとして『循環のみち下水道の成熟化』を図るため、『「循環のみち下水道」の持続』と『「循環のみち下水道」の進化』を二つの柱に位置づける。

## 新たな下水道ビジョン：「循環のみち下水道」の成熟化

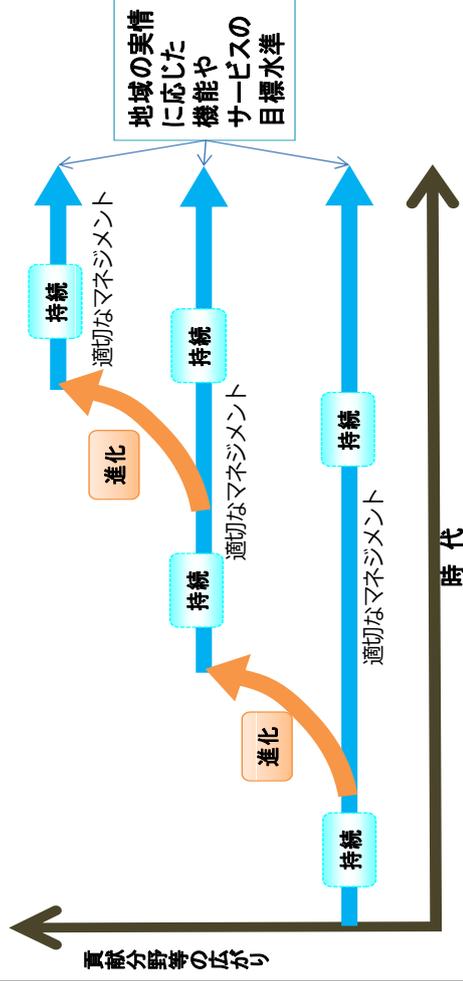
### 『循環のみち下水道』の持続

各地方公共団体ごとの使命および機能やサービスの目標水準を、適切なマネジメントにより「持続」させることを目指すもの。

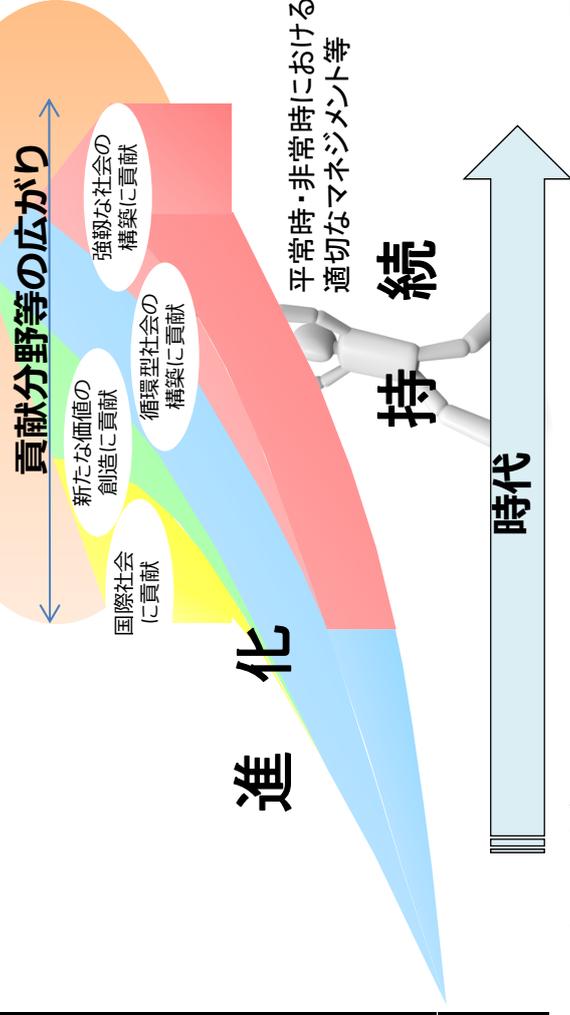
※既存の取組の現状維持を目指すことのみならず、下水道のマネジメントを発展させ、サービスの安定性や効率性など質的な向上を図り、持続

### 『循環のみち下水道』の進化

人口減少や気候変動、ICT等の技術革新等を踏まえ、スマートに対応していくことや、下水道のポテンシャルを活かしつつ、多様な主体との連携を通じ、分野や地域を越えて社会への貢献範囲を拡大させていくことを目指すもの。



## 持続的発展が可能な社会の構築に貢献



## 【第3章】 3. (1) 「循環のみち下水道」の持続

### (1) 「循環のみち下水道」の持続

○平常時・非常時ともに絶え間なく、広域的な観点で踏まえつつ、時代のニーズに応じた事業者毎の最適な下水道サービスを提供する。

#### ① 人・モノ・カネの持続可能な一体管理(アセットマネジメント)の確立

○「管理・運営」の時代に適した、人・モノ・カネが一体となった事業管理体制を確立する。

#### ② 非常時(大規模地震・津波・異常豪雨等)のクライシスマネジメント※の確立

○適切な被害想定にもとづく防災・減災を推進するという考え方のもと、ハード・ソフト対策を組み合わせた非常時のクライシスマネジメントを確立する。

※本ビジョンでは「クライシスマネジメント」は非常時の危機管理行動のみならず、これらの行動を決定する上で重要な要素となるハード対策を含めた概念とする。

#### ③ 国民理解の促進とプレゼンスの向上

○国民1人1人にとって、下水道が「自分ゴト化」された社会を実現するとともに、下水道ブランドの確立とプレゼンスの向上を目指す。

#### ④ 下水道産業の活性化・多様化

○民間企業が下水道事業の市場を見据え、戦略的に自らビジネスモデルを構築し、地方公共団体や公的機関等による下水道管理者の視点からの適切な業務評価を受けつつ、持続可能な事業運営により積極的に参画する。

○民間企業の強みを活かすとともに、革新的技術の活用等により、常に最適なサービスを提供するとともに、新たなビジネスチャンスを開拓していく。

## 【第3章】 3. (2) 「循環のみち下水道」の進化 (1/2)

### (2) 「循環のみち下水道」の進化

- 地域における水・資源・エネルギーの最適な循環、および都市における浸水リスクをマネジメントする「要」となるとともに、下水道施設においてもエネルギー的に自立する。
- 下水道のポテンシャルを活かした多様な主体との連携を通じ、食料、資源、エネルギー分野等の多様な分野に下水道の貢献範囲を拡大していく。
- 日本の枠を超え、世界の水問題の解決と水ビジネス市場の獲得を図る。

#### ① 健全な水環境の創造

- 下水道が能動的に水量・水質を管理し、地域に望まれる水環境を創造する。
- リスク物質を適正にコントロールするとともに、保有する流入水質情報を活用して感染症拡大を防止するなど地域に貢献できる下水道システムを構築する。

#### ② 水・資源・エネルギーの集約・自立・供給拠点化

- 再生水、バイオマスである下水汚泥、栄養塩類、下水熱について下水道システムを集約・自立・供給拠点とする。
- 従来の下水道の枠にとらわれずに、水・バイオマス関連事業との連携・施設管理の広域化、効率化を実現する。

#### ③ 汚水処理の最適化

- 全ての国民が最も基本的なインフラである汚水処理施設に早期にアクセスできるようにするとともに、人口減少にも柔軟に対応可能なシステムへと進化させる。
- 省エネルギー化・汚泥処分量削減・温室効果ガス排出削減により、環境に配慮した汚水処理システムの構築を図る。

## 【第3章】 3. (2) 「循環のみち下水道」の進化 (2/2)

### ④ 雨水管理のスマート化

- 気候変動による豪雨の頻発、放流先の海面の上昇等のリスクに対する適応策として、賢く・粘り強い効果を発揮するハード、ソフト、自助を組み合わせた総合的な浸水リスクマネジメント手法を活用し、浸水に対して安全・安心な社会を実現する。
- 雨水管理の一環として、まちづくりと連携して雨水貯留・浸透及び雨水利用等を積極的に進めることにより、気候変動等を踏まえた渇水・豪雨にも耐えうる強い都市に再構築する。
- 放流先水域の利活用状況に応じた雨天時水質管理を実施し、雨天時における公衆衛生上のリスクを最小化する。

### ⑤ 世界の水と衛生、環境問題解決への貢献

- 日本の技術と経験を活かし、諸外国における持続可能な下水道事業の実現に貢献する。
- 本邦企業の下水道整備・運営案件の受注件数(金額)を飛躍的に増大させ、本邦企業の水メジャー化を推進する。

### ⑥ 国際競争力のある技術の開発と普及展開

- 『「循環のみち下水道」の成熟化』の実現を支え、加速させる技術を開発し、それら技術を円滑かつ迅速に全国、さらには海外に普及させる。